

第3号議案 第23回学術集會長の選任について

議長より、9月11日の理事会にて第23回学術集會長に稲垣美紀氏(摂南大学)が承認されたことが報告され、議場にその承認が求められたところ、異議なく承認された。

【報告事項】

1. 令和4年度定時社員総会報告

議長より資料が示され令和4年度定時社員総会報告が行われた。

2. 総務報告

齊藤奈緒総務担当理事より、資料が示され総務報告が行われた。令和4年度末の会員数は、個人会員1,345名、賛助会員1名であり、前年同時期より約100名程増加していた。なお、定款第12条により、来年7月末には会費を2年間滞納した会員は自動的に資格を喪失する。

3. 理事会報告

議長より、資料をもとに、令和4年度の理事会開催状況について報告がなされた。

4. 令和5年度事業計画・予算

各委員長より、資料をもとに、標記報告事項について以下のとおり報告がなされ、はじめに令和5年度の実業計画について、各委員長より以下の通り報告がなされた。

1) 学術委員会

① 循環器病に関わる看護職者の知識の向上に資する教育セミナーの開催

A) ZOOMウェビナーを活用したオンラインセミナーの開催 2回

2024年2月(予定) 2024年7月(予定)

循環器病対策推進基本計画やセミナー参加者のニーズなどを反映したテーマを検討する。

B) セミナー内容の体系化、セミナー運営方法の検討

セミナー参加者のアンケート調査の結果をもとに検討する

② 循環器看護領域の学術的基盤の構築と発展に向けた検討

C) 循環器看護の定義案をもとに循環器看護のコア・コンピテンシーの作成を検討する。

目的:多様化する循環器医療において、循環器看護の専門職の育成に寄与する。

2024年:研究倫理審査、倫理審査承認後から2024年7月:フォーカスグループインタビューの実施とデータ分析、学術集會に向けた企画(交流集會など)の検討

2) 学会誌編集委員会

- ① 日本循環器看護学会誌 J-Stage での年 2 回(第 19 巻第 1 号,第 19 巻第 2 号)の掲載、第 20 巻第 1 号の掲載準備
- ② 電子投稿システムの運用と査読体制の評価と改善(継続)
- ③ 専任査読委員体制の強化、任期終了時の更新や新規候補者推薦等のシームレスな体制作り
- ④ 投稿原稿の活性化および質向上に向けての対策の検討
 - ・ 第 21 回学術集会での委員会セミナーの企画
 - ・ J-Stage の早期公開機能の導入の検討による迅速な研究成果の公表
 - ・ 迅速査読の導入の検討、投稿者の資格の見直し等

3) 政策・診療報酬委員会

- ① 2024 年度診療報酬改定にむけて循環器看護分野からの医療技術、診療体制等についての対応
- ② 2026 年度診療報酬改定にむけて循環器看護分野からの医療技術、診療体制等についての提案準備
- ③ 循環器看護分野からの医療技術・診療体制等についての循環器看護の可視化のためのデータづくりの準備(研修会などの開催)
- ④ 政策提言および、医療保険に関する外部機関への会議等の出席、および渉外(日本看護協会、看護系学会社会保険連合等)
- ⑤ 2023 年 3 月の実態調査の結果を第 20 回本学会学術集会へ発表および論文投稿

4) 広報委員会

- ① 新ホームページのコンテンツの充実
 - A) コンテンツ「ガイドライン検索」の整備
 - B) コンテンツ「Newsletter」の整備(検索機能, topics ごとの分類の作成)
 - C) コンテンツ「スペシャリストナース」の充実
 - (ア) 慢性心不全看護/心不全看護認定看護師の活動紹介
 - (イ) 他の認定看護師/専門看護師の紹介内容の検討
 - D) 学会誌のオープン化に合わせたリンク整備(J-Stage, メディカルオンライン?)
 - E) 会員専用コンテンツの充実
 - (ア) 教育セミナーのオンデマンド配信等に向けた準備
 - (イ) 会費のクレジットカード払いの整備
- ② Newsletter の充実
 - A) 年 6 回のメール配信(Hot topics 研究編×2, Hot topics 臨床編×2, その他×2 (学術集会レポート, 国際関連学会レポートなど)

5) 倫理委員会

- ① 申請のあった研究に対して、規定に基づき倫理審査を行う
 - ② 個人情報保護に関する問題が生じた場合に対応を行う
 - ③ 本学会の研究に関する「利益相反指針」を運用する
 - ④ 一般社団法人日本循環器看護学会倫理綱領に関する問題が生じた場合に対応を行う
- 6) 国内交流委員会
- ① 本法人と国内の循環器看護関連法人・学会・研究会などを中心とした諸団体との交流を図る。
 - A) 関連法人・学会・研究会とのジョイントセッションの企画・開催の承認、座長・演者の推薦、本学会の名称利用・告知協力等の諸否について検討をする。
 - B) 新たな関連法人・学会・研究会とのジョイント・シンポジウム開催後は座長・演者の意見を聴取して今後の交流について検討する。問題が生じた場合は、直ちに委員会で検討して解決を図る。
 - ② 関係諸団体と本法人との窓口となる。
- 7) 国際交流委員会
- ① 海外の学術団体との交流
 - ② 学術集会における国際交流に関するプログラムの企画提案
 - ③ ニュースレターへの国際学会参加記の寄稿
- 8) 選挙管理委員会
- ① 法人第 6 期における選挙にむけた計画および実施
 - A) 令和 5 年度開催(選挙は 2024 年開催) 理事・監事選挙にむけたスケジュール計画
 - B) 法人第 6 期選挙の実施
- 9) 将来構想委員会
- ① 2022 年度の活動結果や学会を取り巻く状況等もふまえ、以下の内容に関わる活動を行う。
 - A) 将来構想に関する事業の検討、理事会への提案
 - B) 当法人の組織運営に関わるニーズの把握、活性化に向けた事業の検討と理事会への提案
 - C) 学会の将来構想に関わる事業についての関連委員会との連携・調整・評価
- 10) 総務委員会
- ① R3 会員ニーズ調査及び循環器病対策推進基本計画に基づく本会事業見直しに伴う委員会組織・業務整理および各委員会の活動支援、調整
 - ② 本会設立 20 周年企画(2024 年6月頃:本会事業年度 2023 年度実施)
 - ③ 理事会、社員総会、会員総会の運営補助
 - ④ 会員獲得・会員情報管理に関する事業

- ⑤ 専門的知識・スキル・知見を要する人材発掘・掌握のためのデータベースづくり
- ⑥ 規定類の評価・見直し
- ⑦ 若手研究者の研究助成事業の実施・評価・見直し

事業計画の報告に続き、令和 5 年度予算案について齊藤総務委員長より、収入 27,483,000 円、支出 28,919,418 円、収支差額 14,364,188 円と資料に基づき示された。また、各委員会の予算案についても報告が行われた。

5. 論文表彰

資料に基づき本年度は表彰候補 13 論文より下記の優秀論文賞及び奨励論文賞が選出された旨、報告がなされた。

優秀論文賞：「病院における慢性心不全末期・終末期看護ケアのプロセスに焦点を当てた質評価指標の開発」(大林実菜氏)

奨励論文賞：「成人期のマルファン症候群患者の受診状況と社会保障制度の利用状況」(清水知子氏)

6. 第 20 回日本循環器看護学会 学術集会報告

企画委員齊藤理事より、学術集會長の代理で資料に基づき、開催直前の報告がなされた。

【第 20 回学術集会】

■会期：2023 年 9 月 16 日(土)・17 日(日)*ライブ配信、オンデマンド配信

【オンデマンド配信】2023 年 10 月 2 日(月)～2023 年 10 月 31 日(火)

■テーマ：CONNECT ～循環器看護の力～

■ホームページ：<http://square.umin.ac.jp/jacn2023/index.html>

※学術集會会長より「9 月 11 日時点で事前参加登録は 650 名前後(目標の 7 割程度)の為、周囲に参加登録の促進のご協力を依頼したい。」との要請があった。

その他

1. 第 21 回学術集會会長 ご挨拶

三浦英恵学術集會会長より、資料に基づき、第 21 回学術集會に関する報告がなされた。

【第 21 回日本循環器看護学会学術集会 概要】

会期：2024 年 11 月 9 日(土)、10 日(日)

テーマ：循環器看護のダイバーシティからの創造～ひろがる、うまれる～

会場：日本赤十字看護大学広尾キャンパス(東京都渋谷区広尾)

2. 会員総会の資料について

今年度も、COVID-19 拡大により学術集会在 WEB 開催となったため、会員総会も WEB 開催とし、資料を一定期間、学会ホームページ(会員専用閲覧ページ)に公開する予定である。

以上により Web 会議システムを用いた社員総会は、終始異常なく、全ての議案が終了したため、議長は本総会の閉会を宣言した。

以上、議事の経過の要領及びその結果を明確にするため、本議事録を作成し、議長及び議事録署名人が次に記名押印する。

令和 5 年 9 月 14 日 一般社団法人日本循環器看護学会 定時社員総会

議 長 眞嶋 朋子 印

議事録署名人 山中 源治 印

議事録署名人 三浦 稚郁子 印